



開院 **30** 周年
この **30** 年を踏まえて、
さらに **前進**



基本理念

病む人に寄り添い、安全かつ最適な医療を提供します



九州医療センターの基本理念

基本理念は2018年10月に職員全員の意見を集約して決定されました。「病む人に寄り添う」とは、常に患者さんに接して苦痛や希望を知り、患者さんの権利を第一に、ご家族や重要な関係者の思いにも耳を傾けて温かい医療を実践する姿勢を表しています。「安全」な医療とは、検査および治療成績とともに当院での成績をもとに十分な説明を行い、患者さんの理解と同意を得て、可能な限り不利益を最小限化して提供する医療です。また「最適な」医療とは、病院の総合力を生かして、いくつもの選択肢の中から患者さんの自己決定権のもとで選ばれた医療を、患者さんと医療者が協議して実践する医療です。

職員は時代の変化と患者さんのニーズに柔軟に対応できるよう日々研鑽し、医療連携を推進し、病院の健全な経営にも積極的に参画し、一丸となって基本理念および運営方針を推進します。

INDEX

- 1 巻頭言 岩崎浩己
- 2 就任・新任の挨拶 太田、吉村、国府島、吉田、吉弘
染矢、岡村、富永、松尾、山下、長田、安達、座木
- 3 さわやかナースング 中村千夏子
- 4 ヒポクラテスのカフェ / 九州ところどころ
- 5 地域医療連携だより かきうち小児科 垣内辰雄
- 6 PET-CT装置更新のご紹介 渡辺武美
- 7 開院30周年を迎えて ~外科総合部門の歩み~ ... 高見裕子
- 8 教授就任おめでとうございます! 井上、福泉



祝！開院30周年 「KMCミッション2024」

院長 岩崎 浩己

記録的な猛暑が続いております。体調管理には万全を期していただきたいと思います。

さて、九州医療センターは開院30周年を迎えました。この記念すべき7月に、私たちの存在感をさらに高めるべく、「KMCミッション2024」と題した行動計画を考えてみました。地域から信頼されるために、すべての部署で、それぞれの立場で、7つのミッションの達成度を日々確認しながら、私たち九州医療センターのブランディングを前に進めましょう。

01 | 一人ひとりがKMC ～患者さんに選ばれる病院であるために～

これは繰り返しお話していることですが、職員一人ひとりの善き行いの総和が病院のブランド力になるということです。ミッションの一丁目一番地として常に意識しておいて頂きたい心の持ちようです。

02 | 基本理念を大切にした温かみあるホスピタリティ・コミュニケーション

患者さんとご家族の痛みや不安にしっかりと寄り添うことは、医療者のもとより病院で働くすべての職員が実践しなければならない当院の基本理念です。安心して治療を受けていただくために、温かみあるホスピタリティ・コミュニケーションの輪を広げましょう。

03 | 誇りと喜びを感じながら安心して仕事ができる職場環境の維持

すべての職場で経験価値を高めることが大切です。病院をエンジンに例えれば、各職場は協調して動くシリンダーに相当します。1箇所でも滑らかに回っていないと全体のパフォーマンスが上がりません。業務の複雑化や働き方改革など厳しい現状はありますが、職員同士のホスピタリティ・コミュニケーションを高めることで、ハラスメントの無い健全な職場環境を維持しましょう。

04 | 地域の人びとの命を守る高度急性期・救急医療の充実

最新の医療機器・設備による最適な診療、切れ目のない寄り添う看護、きめ細やかな相談支援をチーム一体となって実践することで、患者さんにとって最良のアウトカムに繋げる努力を続けましょう。

05 | 優れた人材を育てる組織力の強化

少子化社会における人材確保は大きな課題です。新しく組織に加わった若い人たちの夢を叶えるために、キャリアプランをしっかりとサポートする研修教育体制を充実させましょう。これからはオンボーディングのための施策が重要になります。それぞれの職場で取り組みをお願いします。

06 | 臨床力と研究力の相乗効果でトップブランドへ

臨床と研究は切り離すことのできない一連のものとして進歩してきました。臨床研究センターを擁するNHO病院として、研究業績アップは私たちの重要なミッションです。

07 | 健全経営

以前にも紹介していますが、医師であり官僚・政治家の後藤新平（1857-1929）の次の言葉に尽きます。「財を遺すは下 事業を遺すは中 人を遺すは上なり されど 財なくんば事業保ち難く 事業なくんば人育ち難し」ということです。ミッション1～6にしっかり取り組めば、特別なことをしなくても結果として健全経営が実現されるというのが理想です。

この節目の年に、明確な行動目標を共有することは意味があると思います。「KMCミッション2024」は、九州医療センターの将来ビジョンに直結します。皆で価値を高める取り組みを実践しましょう。

Our mission
Our vision
Our values

就任・新任の挨拶

消化管外科医長 太田 光彦



この度、九州医療センターに赴任いたしました消化管外科の太田光彦と申します。今回で2度目の赴任となります。今回は11年前から3年間お世話になり、腹腔鏡手術の標準化やロボット手術の導入という貴重な変革期を経験させていただきました。開腹手術から

低侵襲手術まで幅広く経験できたことが、今の私の手術手技や考え方の基礎を築く大きな助けとなりました。

その後は九州がんセンターや九州大学で主に胃癌の診療に携わり、消化管癌の手術に力を入れてまいりました。胃癌の手術では、手術の低侵襲化はもちろんですが、再建法の工夫に

よる術後の体力低下の予防も大切にして手術に臨んでいます。

医学の進歩や社会の高齢化、個人の考え方の多様化に伴い、一人ひとりに合った個別化した医療がますます必要だと感じています。患者様一人ひとりに寄り添った医療を提供できるよう、常に最新の医療知識を学び続け、患者様に最善の治療を提供するよう努めてまいります。また、医師、看護師、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフなど、皆さんと協力して、患者様の回復を支える環境を作っていきたいと考えています。

これからどうぞよろしくお願いいたします。お気軽にご相談ください。

消化管内科医長 吉村 大輔



消化器内科医長、消化管内科科長に就任いたしました吉村大輔です。当院に赴任しまして4年目となりますこの度、引き続き地域医療の発展と患者さんの健康維持に貢献する機会を頂きましたことを大変光栄に思っております。

当科はこれまで消化器疾患の診断と治療において先進的な技術と専門的な知識を有する施設として、地域の皆様から信頼を頂いてきました。今後もこの信頼を維持し、当科の強みを更に発展させるため尽力いたします。

私自身、これまで様々な経験を重ねる過程で、消化管表在癌の内視鏡治療、若年者に多い炎症性腸疾患の診療など、地域に

おける当科の役割と責任の大きさを実感しております。引き続き最適な治療の提供にあたり努力する所存です。また、今後地域の先生方との連携をより強化し、情報発信と共有を円滑に行うことで、地域全体の健康推進に貢献できればと考えております。

当院の役割として将来の消化器病診療を支える後進の育成も重要です。これも皆様のご支援があって達成できるものと考えます。どうぞ今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

消化器内科 肝胆膵部門科長 国府島 庸之



この度消化器内科 肝胆膵部門科長に就任いたしました国府島庸之です。昨年より研修医1年目の1997-1998年、留学より帰国後の2010-2016年以来3度目の九州医療センター勤務となり、多くの先生方のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。前任の中牟田誠先生の

後任として、消化器内科 肝胆膵領域の医療体制充実と地域医療の拠点として九州医療センターの更なる発展に貢献していく所存です。経口抗ウイルス薬の進歩に伴いウイルス性肝疾患は減少してきておりますが、生活習慣の変化による肥満人口の拡大に伴い、非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）は増加傾向で

す。NASH由来の肝臓はこの20年で5倍以上と急増しておりますが、我が国では今後も増加の一途を辿ると考えられております。昨年にはアルコール性肝疾患を含め代謝異常に伴う肝疾患の新たな疾患概念と枠組みが全世界的に更新され、代謝異常を伴った脂肪肝症例は代謝異常関連脂肪性肝疾患（Metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease : MASLD）と診断されます。肥満・糖尿病・高血圧・高脂血症など代謝異常を伴った病態ですので、他の診療科や病診連携が益々重要となると考えられます。今後とも引き続き倍旧のご指導・ご鞭撻を賜りたく、切にお願い申し上げます。

就任・新任の挨拶

集中治療科科長 吉田 真一郎



今年度より集中治療科医師として着任いたしました吉田と申します。集中治療分野は、近年の新型コロナウイルス感染による重症呼吸不全の管理などで注目され、これまで尽力してきた他領域（循環・代謝栄養・理学療法・退室後の生活レベルなど）にも改めて

関心が高まっているように感じます。2022年は、医師法施行規則改正で集中治療科が診療科名として追加され、日本専門医機構のサブスペシャリティ領域に認定されるなど、評価された成果が実った年になりました。その最中、当院で集中治療科を立ち上げる運びとなり、まだ院内各科との連携体制や信頼関係を構築するところから始めているところですが、当院の強みをうまく利用しつつ弱みには積極的に介入し、効率のよい集中治療を提供することを当面の目標にしています。

また、集中治療を志す先生方に研修の機会が提供できるよう、施設認定や業務の拡大、データベースづくりも検討しているところです。ただ、単施設の研修で高い視点を得るには限界があります。大学を含めた多施設の先生方とお話しさせていただき機会を得ることも重要と考えております。諸先生方、コメディカルの皆様、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



事務部長 吉弘 和明



令和6年4月1日付の人事異動で事務部長として着任いたしました吉弘と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

当院には平成22年4月から4年間勤務しましたので、懐かしい思いもありますが、同時に当院が長年にわたり高度総合医療施設として多様な医療ニーズに応えるべく診療機能の更なる充実・強化を図っていることに対して、身が引き締まる思いを感じています。

私事ですが、簡単に自己紹介。出身は大分県別府市ですが、現在は長崎県大村市に留守宅を構えております。単身での生活

が長いので、一通りの家事全般は何とかこなせるようになりましたが、料理の腕前が上達しません。センスの問題でしょうか。

さて、医師の働き方改革への対応、物価の高騰等、医療機関を取り巻く環境は厳しい状況にありますが、諸先輩方が築かれてきたものを継承しつつ、地域医療構想に沿った医療機能の充実・強化を図っていく必要があると考えております。

今後におきましても、地域の枠組みの中で、その役割を担うべく診療内容の充実を図るとともに、地域の医療機関の皆様方との連携を深め、患者さんが安心して医療を受けられるよう微力ながら取り組んで参りたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

臨床検査技師長 染矢 賢俊



令和5年4月1日付で長崎医療センターより異動して参りました染矢賢俊と申します。

九州医療センターでの任務は3回目となり、一般技師、副技師長を経験し今回、技師長としての業務にあたりこととなり非常に緊張しております。NHO

九州グループの本丸施設の臨床検査室として恥ずかしくないよう奮励努力し職責を全うしたいと思います。皆様、ご指導の程どうぞよろしくお願い申し上げます。





4月1日付けで小倉医療センターより異動して参りました理学療法士長の岡村です。

九州医療センターとは縁あって今回で3回目の勤務となりますが、赴任の度に多様な病院機能及び医療水準の高さに身の引き締まる思いです。

今年は6年に一度の診療報酬と介護報酬及び障害福祉サービス等報酬の同時改定、いわゆるトリプル改定の年です。改定についてリハビリテーション関連を見渡すと、「リハビリテー

ション、栄養管理及び口腔管理の連携・推進」は、診療報酬改定と介護報酬改定の双方で重点項目に挙げられており、急性期・回復期と生活期のリハビリテーションの円滑な移行などが求められることとなりました。加えて2025年を直前に「地域包括ケアシステム」の実践時期に入るため、地域における当院のリハビリテーション機能・役割を認識し、地域連携を推進していかなければならないと考えております。

どうぞよろしく申し上げます。



この度、熊本医療センターより着任いたしました富永圭一と申します。今回2年ぶり3度目の九州医療センター勤務となります。以前一緒に働いた方々も多数いらっしゃいましたので、改めてご一緒できることを大変うれしく思っております。

今日の医療において医療機器は不可欠な存在であります。医療技術の進歩に呼応して医療機器も日々高度化・複雑化しています。それら高度医療機器を操作・管理するのは容易ではなく、医療機器の知識や技術に精通した職種が必要となります。私たち臨床工学技士は循環・呼吸・代謝を司る生命維持管理装

置をはじめとする各種医療機器操作・管理のスペシャリストとして日々の業務を遂行しています。院内における臨床工学技士の需要も年々高まっており活躍の場も増えておりますが、患者生命に直結する業務も多いため常に最善で安全な医療技術を提供できるよう努めております。併せて関連部署との連携を強化して、院内の医療安全の一翼を担いたいと考えております。また医療機器管理を通じて病院資産の一つである医療機器の効率的運用を行うことにより病院経営にも貢献したいと考えております。今後ともMEセンターをよろしく願います。



4月1日付けで南九州病院から配置換えで参りました経営企画室長の松尾と申します。

赴任して数か月が経過しましたが、病院の規模、診療の多様性、そして患者さんや職員の多さに毎日圧倒され、改めて大病院の職員の一員として働けることに喜びを感じるとともに、強い使命感を感じているところ

です。経営企画室長の仕事は、職名のとおりに経営を企画することにあります。九州医療センターの健全経営のために力を尽くしていきたいと思っております。「できない言い訳を考える

な。どうやったらできるかを考えろ。」これは、前に勤めていた病院で大変お世話になった先生がよくおっしゃっていた言葉です。この言葉をモットーに前向きに仕事に取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願います。

就任・新任の挨拶

副看護部長 山下 智美



活水女子大学（長崎医療センター付）より異動で参りました副看護部長の山下と申します。

当院での勤務は初めてです。4月に着任した際、職員同士がお互いを思いやり、あたたかい環境にあることを感じ、とても安心した気持ちでユニフォームを着ることが出来ました。

身長が高く「スポーツ何してたの？」とよく聞かれますが、バレー部もバスケット部も入部したことはありません。出身は

長崎で毎日がアウトドアのようなミカン畑の中で育ちました。そのため福岡はとても都会で、通勤も楽しい気持ちになります。

これまで長崎、鹿児島、福岡、別府等で勤務してきました。副看護部長としては2施設目となります。開院30周年記念の年にKMCのメンバーに加わることができ、光栄に思います。「寄り添う」の意味を考え、言葉だけでなく、行動に変えて看護の質向上に尽力して参りたいと思います。どうぞ、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

副看護部長 長田 祐子



この度、指宿医療センターより異動して参りました長田祐子と申します。以前は看護師長として勤務しておりましたので2度目の赴任となります。その頃お世話になった先生方を始め、苦楽を共にした看護師長さん方や成長したスタッフとまた一緒に働くことができ大変うれしく思っております。また、長崎出身の私にとって、憧れの地、福岡で再び生活できる幸せと、前任地である

沖縄、鹿児島からの帰省とは比べ物にならない速さで実家に帰れる喜びを実感しております。

不安と緊張の着任日には“ようこそ、九州医療センターへ”と書かれたカードと新たなマスコット、“ももろう”に迎えられ、“一人ひとりがKMC”を肌で感じ、九州医療センターの一員としての自覚が芽生えました。微力ではございますが看護部の理念にもあります「患者・家族に寄り添う看護」の実践に向け、これまでの経験を活かし、尽力して参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

臨床検査部 副臨床検査技師長 安達 知子



4月1日付けで九州がんセンターより配置換えで参りました副臨床検査技師長の安達と申します。九州医療センターは、主任でもお世話になりました。主任時代は超音波生理検査センターにて超音波機器での取りまとめ業務などにも携わり、多くの方々の協力も得て業務にあたらせて頂きました。立場も変わり、マネジメント業

務にも多く携わり、試行錯誤の日々が続いています。自分のできることから少しずつ挑戦していきたいと考えております。

「継続と挑戦!」、変化を恐れず、病院運営に貢献できるような取り組みに携わることができればと思っております。まだまだ学ぶことが多い毎日ではありますが、少しずつでも確実に前に進んでいきたいと考えております。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。

副診療放射線技師長 座木 みゆき



この度、嬉野医療センターより昇任で参りました座木みゆきと申します。九州医療センターには11年前、一般技師として5年半程お世話になっておりました。あの頃と変わらない建物に懐かしさを覚えた半面、一緒に働いていた人はすっかり入れ替わり、装置も色々更新されていたりと新鮮な気持ちです。これ程大規模な施設の

副技師長を務めることへの責任の重さと不安を感じながら業務をこなす毎日ですが、周りの方々に指導いただき、また支えられながら自分のできることから一歩ずつでも成長していきたいと思っています。「患者の皆様への心ゆたかな医療の実現」という放射線部の理念のもと、地域との連携強化をはかり、安全安心で良質な医療を提供すべく努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い致します。

さわやかナースング



ようこそ九州医療センターへ

臨床教育研修センター

教育担当看護師長 中村千夏子

Welcome



fresh Nurse・Midwife

看護部では令和6年4月に96名の新人看護職員を迎えました。

社会人そして看護師・助産師として歩み始める場として九州医療センターを選んでくれた大切な仲間です。職場での看護実践を通して看護職として働く基盤を作り、専門職業人としての自覚を育み職場適応を促すことを目的に、入職後2週間の初期研修を実施しました。初期研修を終えて、「先輩たちの姿を見て本当にかっこいいと思ったし、私も患者に寄り添うことのできる看護師として自信を持って働けるようになりたい」と、さっそくロールモデルを見つけて看護職として働くことへの期待を感じていました。職場が心地よい居場所となるように、OJTで個々を尊重した教育・支援を実施しながら、成長を見守っていきたいと考えています。



4月



5月



6月

だんだん職場に慣れてきたかな
みんないい笑顔！

先輩から
メッセージを
もらったよ



3ヶ月でできるようになったことや成長を同期みんなと発表しました。



ヒポクラテスのカフェ

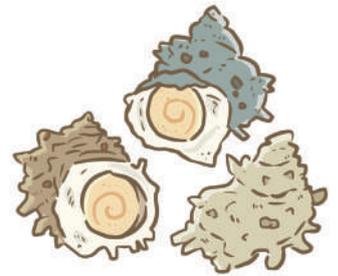
“食物連鎖：サザエの話”

NHO 都城医療センター 吉住 秀之

あの採りたての栄螺を岩の上に叩きつけて割り、むき身を潮水で洗って生のまま喰べると、柔らかく甘みがあってうまかった。
(田畑修一郎『栄螺』)

サザエは、日本ではアサリやシジミと並んで最もよく知られた貝類であり、国民的アニメーションの主人公の名前にもなっています。長谷川町子さんは、この一家の名前を、疎開先の博多の自宅近所の百道浜を散歩して思いついたそうで、それにちなんで、脇山口交差点からシーサイドももち海浜公園までの道路は、サザエさん通りと名づけられ、福岡市民に親しまれています。そのような身近な生物種でありながら、実はつい最近まで正しく同定分類できていなかったという驚かれるでしょうか。2017年岡山大学の福田宏准教授は、欧米の古文献を再調査した結果、日本では食用として広く知られている貝類のサザエが、これまで有効な学名をもたず、事実上の新種として扱われるべきであることを解明し、サザエの学名を新たに「*Turbo sazae* Fukuda, 2017」と命名しました (Fukuda H. (2017). Molluscan Research, doi: 10.1080/13235818.2017.1314741)。いったいこれまでの経緯はどうなっていたのでしょうか。今までサザエの学名は、1786年にスコットランドの僧侶で博物学者であったジョン・ライト

フット(1735-1788)が命名したとされる「*Turbo cornutus*」が用いられてきましたが、実はこの名は中国に産する別種ナンカイサザエに相当するもので、サザエではなかったことが今回初めて判明したのです。そもそもこの混乱は、英国の貝類学者ロベル・リーヴが、1848年に誤ってナンカイサザエとサザエを混同し、サザエを「*Turbo cornutus*」と呼んだことが始まりです。以後約170年にわたり、世界の貝類研究者全員がリーヴの誤りを正すことなくてしまいました。そればかりかリーヴは、シーボルトが日本で採集したサザエを「*Turbo japonicus*」と命名したのですが、その際にモーリシャスに産する全く別の種と混同し、後の研究者によってこの学名はモーリシャス産に固定されてしまいました。国際動物命名規約のルールに従えば*T. japonicus*はモーリシャスの種の学名であり、もはや日本のサザエには適用できません。ナンカイサザエは1995年にサザエと識別され、新種「*Turbo chinensis*」として記載されましたが、この時記載されるべきだったのはナンカイサザエではなくサザエの方でした。*T. chinensis*は*T. cornutus*の不必要な新参異名であり、無効名というわけで、結局サザエには、史上一度も有効な学名が与えられたことがなかったこととなります。地球上に存在する動物の種で学名のない種(未記載種)は、万国共通の国際動物命名規約に即し、新種として学名を記載・命名されなければ、生物学上、正式に認知されたことになりません。つまりサザエは、驚くべきことに、分類学上は新種であることになり、晴れてサザエは「*Turbo sazae*」と命名されたのでした。



九州ところどころ

海も探検も・・・ ～石垣島～

幼いころから「夏は海」が深くすり込まれている自分にとって、石垣島はまさに天国です。ダイビングをする方にはなじみのある場所と思います。福岡から直行便で二時間半、沖縄乗継なら三時間半程度で到着します。

市街地以外は「熱帯雨林感」が強く、夜ともなると真っ暗な森や原野が広がり、道端からシロハラクイナが出てきたりするところもそそられます。島自体あまり大きくありませんので、レンタカーで一週も可能です。

特に有名なのは、川平湾でしょう。とても透明度が高く、グラスボートに乗れば様々な海の生き物が見られますので、小さなお子さんでも楽しめます。

川平湾以外に有名なのが米原ビーチです。遠浅で、浜辺から数メートル以内にサンゴ礁があり、クマノミもいます。ただし遊泳危険区域ですので、早い流れや潮の干満に十分注意が必要です。



もう一つの楽しみは、鍾乳洞です。何か所かありますが、整備がいま一つの洞もありますので、調べてから行かれることをおすすめします。洞窟好きなら、あえてあまり手が入っていない洞狙いもありかもしれません(安全の保障はできかねます)。空港から30分程のところもあり、帰路の途中に立ち寄ることも可能です。

今回は触れませんでしたでしたが、石垣牛・石垣焼(焼き物)・ミンサー(織物)など特産品も色々あります。

島のそよぐ風に吹かれながら、すこしの間日常を忘れに訪れてみてはいかがでしょうか。

ペンネーム：うみうし

シロハラクイナ



地域医療 連携 だより

こどものよろず相談所

かきうち小児科
院長 垣内 辰雄

かきうち小児科 院長 垣内辰雄と申します。特に重きを置いている専門はありません。町医者らしく感染症をはじめ、腎臓や心臓、そして個人的には血液学、免疫学が少し詳しく診れます。ホームページにも掲げていますが、『地域のよろず相談所』たりえるよう日々励んでいます。診療への想いも、こだわらないことにこだわりたいなと精進してきました。分からないことは仕方ないですが、これは小児科ではない…という括りは外して、出来ることはしていこうと考えています。小児を診ていく中で、初めてのお子を持たれた新米の

お父さん、お母さんの力になればと考える今日この頃です。現在、8年目になります。愛知県がんセンターにて基礎研究でウイルス学、疫学統計学、遺伝子工学をそれなりに学ばせてもらえました。このおかげで、今やパンデミックとは言えないまでもコロナ（COVID-19）に関しても、コロナワクチン（mRNAワクチン）に関しても、考えて対応することができました。加えて、コロナ禍明けより、ようやく地に足のついた診療が出来るようになったと自覚できています。

当院の特徴として欠かせないことは、耳鼻科との連携と考えます。兄弟で小児科、耳鼻科を同じ建物で診療しています。この文章の依頼を九州医療センターより受けて、耳鼻科との連携は当たり前となっていたため特徴だったなと改めて気がつくに至りました。

現在も、一緒に勤務している事務の方や看護師に恵まれ、私は好きな診療のみが出来ています。最後に、九州医療センターは当院より最も近くにある病院です。入院をいつも快く受けてくださり日々感謝いたします。



PET-CT 装置更新のご紹介

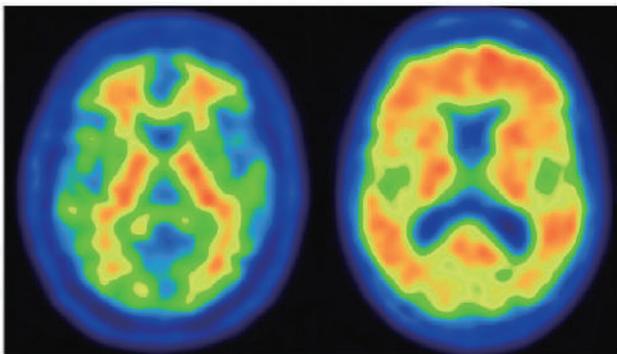
核医学検査主任 渡辺 武美

この度、平成25年に導入されたPET-CT装置は稼働から約10年が経過し、念願かなって令和6年4月にPET-CT装置（SEMIENS社製Biograph Horizon）の更新が行えました。今回、導入した装置は私たちが想像していた以上に、装置の性能や画質で従来の装置と比較しても感度が4倍、分解能が1.5倍になり画質が格段に良くなり、寝台連続撮影が可能となるため、撮影時間の短縮も可能となりました。また、装置の開口径が70cmと広く開放的な空間となり、狭いところが苦手な患者さんにも、安心して検査ができるようになってきました。また、撮像方法においても従来金属によるアーチファクトで読影に支障があった部位でも、金属アーチファクト軽減や呼吸同期撮影による呼吸性のアーチファクト軽減も可能になり、良好な画質

を提供できるようになりました。そのため、従来行っていた腫瘍検査も含め、最近話題の日本で薬事承認された、認知症の治療薬「レカネマブ（商品名：レケンビ）」診断薬検査のアミロイドPET検査も、高精度で行えるようになってきました。

今回、検査時間の短縮も可能になったため、今後は検査枠の拡大にも努めていき、他施設からの検査依頼やLINEでの検査予約も対応可能になっています。

最後に、我々放射線部では、安心して安全な検査環境を常に提供できるように心掛け、患者さんに寄り添い最適な医療を提供していきたいと考えております。また、ご不明な点やご不安な点がございましたら、お気軽にお問合せ下さい。



正常画像 陽性画像
アミロイドPETイメージ



PET-CT装置本体

開院30周年を迎えて

～外科総合部門の歩み～

肝胆膵外科/臨床研究センター長 高見 裕子

このKMC News 第108号は国立病院機構九州医療センターが1994年7月に開院してちょうど30周年を迎える月の発刊です。30周年記念誌は今月開催の祝賀会まで掲載する形で粛々と準備が進行中ですので、これまでの病院の歴史はそちらに譲ることにして、ここでは各科の先陣をきって、外科総合部門の30年の歩みをご紹介します。

1994年7月の開院時、「外科」は、九州大学ご出身の朔元先生と久留米大学ご出身の吉田晃治先生という両巨頭のもとに構成されました。国立病院機構福岡中央病院と久留米病院との統合が上手くいくかは、この2つの施設の両外科のトップ次第だと当時噂されていたそうです。まさに統合成功を占う縮図としてお二人の挙動を皆がかたずをのんで見つめるなか、周囲の心配をよそに、お二人はまるで幼馴染みでもあったかのように仲が良くていらっしやいました。開院3日目私が研修医でいた頃、回診時お二人がまるで下校中の仲良し小学生のように付かず離れずの距離で廊下を歩いてゆかれていた光景が今でも目に浮かびます。

以和為貴（和を以て貴しとなす）そして切磋琢磨

この二つの言葉をいつもお二人が繰り返され、ヒトの命の前に出身大学や派閥など関係ないのだという姿を私達に示して下さいました。この外科の統合を朔先生は当院20周年記念誌の中で、『二つの医療文化をひとつに「和えた』』と表現されておられます。「和える」とは、二つの食材を混ぜ合わせることで、個々の風味をさらに引き立たせることだと解説されておられます。

当時の「外科」は今でいう消化器外科、乳腺外科、小児外科、この三つの科から成り立ちました。この「外科」に呼吸器外科、血管外科が加わって「外科総合部門」となり、一緒に抄読会など

において時間を共有することで垣根を無くし、外科全体としてのチームワークが培われました。その後、より専門に特化した技術と知識が望まれ、また病棟がセンターとして再編されたのを機会に、2003年消化器外科は消化管外科と肝胆膵外科に分かれ、それぞれの消化器科（現在の消化管内科・肝胆膵内科）と一緒に『センター』として臨床業務を開始しました。それでも外科総合部門は池尻公二先生の温かい声掛けのもと、毎週火曜日早朝に抄読会で集まり、研修医や若手スタッフが論文を熟読し、またプレゼンテーションの練習にもなる良い時間を共有しました。毎年の歓送迎会もこの外科総合部門で大宴会を催しておりました。

残念ながら、2020年新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行に伴い、（7西カンファレンス室に20名前後が集合する相当密な会だった）抄読会は中止となり、その後は外科総合部門内でも、ほかの科の新しい先生を良く存知上げないままという数年が過ぎました。

しかしこのたび楠本哲也先生から外科総合部門再集合の号令がかかりました。働き方改革にも考慮しつつ、かつ、より研修医教育にも寄り添った形で、毎回各科がテーマを決めて講義や勉強会をする形に進化し、今年5月21日に外科総合部門カンファレンスとして再始動しました。短時間の集まりながら、互いに顔の見える距離で、外科として知っておきたい基礎知識から共有しておきたい最新情報の提供や問題症例の相談等の時間として今後みんなで盛り上げていくことと楽しみにしております。

現在では絶滅危惧種とも揶揄される外科ですが、外科総合部門として充実した活躍ぶりを披露し、一人でも多くの研修医が外科医への道を進んでくれれば、次の40周年、50周年を迎える時にも素敵なチームで在り続けているであろうと夢んでいます。



写真1 吉田晃次副院長退官記念祝賀会にて九州医療センターの礎石に使用されたボルトとスパナをプレゼントされる朔元名誉院長（当時診療部長）



写真3 外科総合部門 最新の集合写真（2024年3月）



写真2 外科総合部門 初代集合写真



写真4 最近の外科総合部門カンファレンス風景

医療職（一）

就任	肝胆膵外科医長 播本 憲史	退任	医療情報システム管理部長 若田 好史
	心臓血管外科医師 神尾 明君		心臓血管外科医長 今坂 堅一
	乳腺外科医師 渡邊 秀隆		乳腺外科医師 松嶋俊太郎



今坂堅一先生

若田好史先生

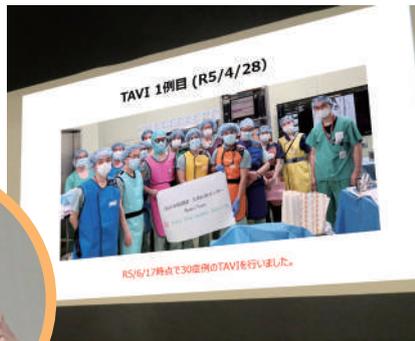
教授就任おめでとうございます！

今坂先生、福島県立医大心臓血管外科の教授へのご就任誠にありがとうございます。先生のためめご努力に培われた確かな臨床力とお人柄により、良いチーム医療を行うことが出来ましたこと、一同感謝申し上げます。先生の更なるご活躍とご健康を祈念しております。

循環器内科科長
井上 修二郎

若田 好史 先生、徳島大学病院 病院情報センター教授就任誠にありがとうございます。当院の医療情報システム管理部長として、医療とシステムを円滑に利用できるようご指導、尽力をいただきありがとうございました。若田先生の今後のご発展、ご健康を祈念いたします。

臨床研究センター
医療管理企画運営部長・医療情報管理センター併任
福泉 公仁隆



編集後記

昨年みずほpaypayドームも30周年を迎えました。今回の表紙の写真と、この写真は昨年撮られたものです。

ダイエーがホークスを買収しなかったら、当院はドーム側の広い敷地に建てられる予定だったので、病室からの眺めがオーシャンビューの景色の良い病院となっていたとのことでした。

副編集委員長 占部 和敬



次の節目は新病院で迎えるのでしょうか。今後がさらに楽しみです。患者さん・ご家族、そして職員からも愛されるKMCであり続けますように。

編集委員長 高見 裕子

医事統計 患者数・診療点数の推移

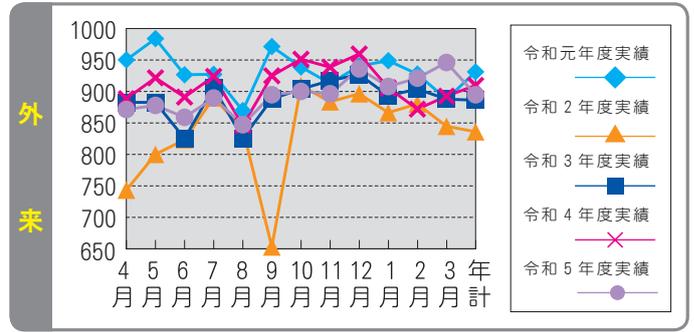
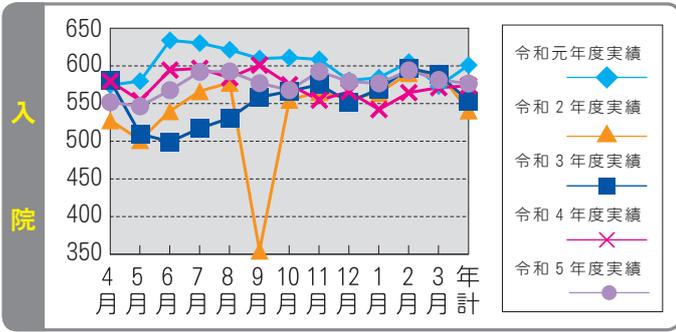
■ 令和6年度は、月平均入院患者数605人と、病床利用率86%達成に向けて取組んでいきましょう！（令和6年5月現在の暫定値）
 外来新患者数は、令和6年3月までの実績で22,196名と前年同月までと比べ2,060件の減となっています。今年度も、新紹介患者の確保と逆紹介の推進が重要となります。1日平均外来患者数は、3月までの実績で894.8名と前年同月までの実績（909.7名）と比較して14.9名の減となっています。
 1日平均入院患者数は令和6年3月までの実績で576.6名と前年同月までの実績（573.6名）と比較して3.0名の増となっています。新入院患者数は3月までの実績で前年同月までと比較すると1,036名の増となっています。平均在院日数につきましては、昨年度と比較して5.4日増えて576.6日となっています。
 入院1人1日当たり診療点数は、令和6年3月までの実績で8,517.2点と昨年の実績と比較すると301.8点の増となっています。外来1人1日当たり診療点数については、令和6年3月までの実績で3266.1点と昨年同月までの実績と比較して60.8点の増となっています。
 紹介割合は、2月までの実績で106.3%となっており高い割合を維持しています。

1日平均入院患者数（在院）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和元年度実績	574.6	579.8	633.9	630.3	621.4	609.7	611.2	608.6	580.7	584.4	605.0	573.3	601.0
令和2年度実績	527.8	501.6	540.0	566.5	577.7	354.8	555.0	565.3	556.5	564.2	590.5	590.4	540.9
令和3年度実績	580.4	509.8	499.3	517.2	530.7	558.6	566.3	575.2	552.1	569.3	596.6	588.7	553.3
令和4年度実績	579.6	554.0	594.5	596.7	584.3	601.1	575.0	554.6	565.7	542.1	564.5	571.2	573.6
令和5年度実績	551.9	546.4	567.8	592.1	592.6	577.1	567.8	592.6	579.1	576.9	594.1	581.4	576.6

1日平均外来患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和元年度実績	950.2	983.9	926.6	927.3	869.6	971.4	938.9	912.7	940.5	948.9	927.7	887.7	931.2
令和2年度実績	743.3	800.1	823.4	889.9	840.8	653.0	909.2	883.6	896.4	866.4	880.2	844.7	836.0
令和3年度実績	882.7	882.6	825.3	906.0	825.7	888.1	903.8	917.2	927.0	893.2	903.9	887.8	886.1
令和4年度実績	888.5	921.7	891.1	924.0	846.1	924.9	951.3	938.6	959.6	905.8	871.9	892.6	909.7
令和5年度実績	871.4	877.9	858.9	889.6	847.2	894.8	900.1	896.4	935.9	907.9	921.2	946.0	894.8

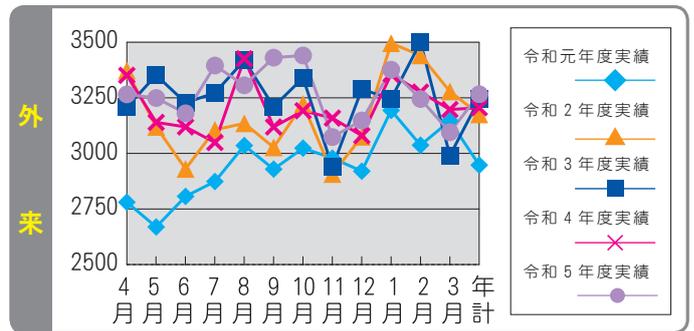
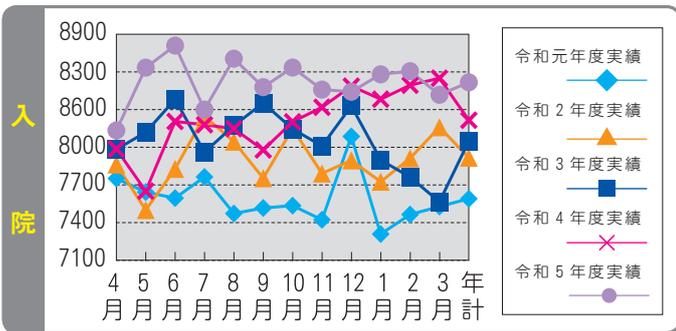


入院1人1日当り診療点数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和元年度実績	7,752.0	7,642.8	7,595.5	7,764.1	7,472.8	7,516.6	7,535.3	7,422.6	8,086.5	7,309.2	7,464.6	7,528.1	7,590.5
令和2年度実績	7,862.5	7,500.1	7,827.7	8,247.6	8,044.8	7,753.7	8,149.1	7,791.3	7,895.8	7,725.7	7,912.4	8,159.6	7,917.4
令和3年度実績	7,983.7	8,119.7	8,381.9	7,961.4	8,172.2	8,352.7	8,146.2	8,010.4	8,329.4	7,899.1	7,762.5	7,565.7	8,050.3
令和4年度実績	7,986.1	7,650.9	8,205.6	8,179.4	8,148.4	7,979.0	8,202.6	8,318.7	8,486.7	8,383.0	8,494.2	8,550.1	8,215.4
令和5年度実績	8,134.0	8,634.1	8,810.2	8,299.8	8,705.5	8,478.6	8,634.9	8,459.3	8,442.2	8,580.9	8,605.9	8,418.0	8,517.2

外来1人1日当り診療点数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和元年度実績	2,780.4	2,669.1	2,806.7	2,873.5	3,035.4	2,929.2	3,023.6	2,978.7	2,920.1	3,193.5	3,037.1	3,146.7	2,947.4
令和2年度実績	3,372.3	3,119.3	2,930.1	3,105.9	3,135.4	3,027.2	3,222.5	2,907.3	3,074.9	3,495.5	3,441.0	3,278.8	3,175.6
令和3年度実績	3,208.4	3,351.9	3,227.9	3,272.2	3,418.7	3,209.9	3,340.1	2,938.5	3,288.3	3,245.5	3,500.6	2,990.2	3,243.9
令和4年度実績	3,351.1	3,139.6	3,119.2	3,049.0	3,425.7	3,118.9	3,191.8	3,158.9	3,079.7	3,356.1	3,275.7	3,197.4	3,205.3
令和5年度実績	3,265.5	3,249.2	3,180.3	3,395.3	3,306.4	3,430.7	3,440.4	3,073.4	3,148.1	3,376.5	3,244.6	3,095.5	3,266.1



紹介割合推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和元年度実績	98.6	98.4	98.7	95.6	97.8	96.7	97.6	98.3	100.3	98.2	98.6	94.1	97.8
令和2年度実績	77.7	98.1	96.2	88.4	89.0	90.2	98.4	93.8	97.0	76.4	90.4	97.8	91.5
令和3年度実績	93.9	87.6	96.2	95.8	92.2	92.1	99.3	100.3	101.1	91.0	76.6	94.0	93.6
令和4年度実績	94.9	95.7	97.2	84.3	81.9	94.4	96.1	94.9	87.5	90.0	98.6	97.1	92.7
令和5年度実績	96.4	95.7	97.4	96.9	96.0	98.7	97.8	95.3	95.7	95.9	91.9	95.6	96.2

